

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101797		
法人名	原口商事 株式会社		
事業所名	グループホーム 暖	ユニット名	ぼたん
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町267-87		
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0870101797-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月4日	評価機関 決 済 日	平成26年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様や御家族の立場になってお世話をいたします。 利用者様の健康を守り、安心して生活出来るような環境を目指します。 利用者様のその人らしさを大切にし、笑顔で楽しい日々を送れるよう支援して行きます。 御家族との連携を保ちながら地域との交流を目指します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は「ご家族との連携を保ちながら地域社会との交流を目指します」などの地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、代表者と管理者を中心に職員同士コミュニケーションを図りながら、利用者が健康で安心した生活ができるよう理念に基づいた支援をしている。 代表者は理念にそった支援の実現に向け、握力や輪投げ、ゲートボール、ゴルフ競技をゲーム形式で行い、点数で競い合う「認知症は治るプログラム」を取り入れており、自ら研修を受講するとともに職員にも伝え、現在は週3日プログラムを実施している。 「認知症は治るプログラム」は点数を競い合うため、「人数が多い方が楽しい」との利用者の意見から2ユニット合同で行っており、部屋に引きこもることがなくなったり、1位になった利用者が家族等に電話をかけて報告したりするなどの効果を得ている。 年間行事に利用者の希望を取り入れ、初詣を始めとして季節の花見や大洗水族館、偕楽園、愛宕山、ポケットファームどきどきなどに出かけているほか、利用者の希望で馴染みの場所にドライブをするなど、外出の機会を多く設けている。 職員と利用者で100円ショップに行き、利用者が自由に買い物ができるよう支援しているほか、年3回外食を支援しており、利用者の楽しみとなっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念をつくり、理念を目に付く場所に掲示し、毎週月曜日の申し送り時に理念を唱和するなど、理念を共有して、実践につなげている。	代表者と全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、事務室とユニットの壁に掲示している。 毎週月曜日に行う申し送り時に全職員で理念を唱和して共有を図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と職員は町内の清掃活動に参加し、町内活動の一端を担っている。 毎年五月に近くの神社で餅つきを実施し、地域の人々や、利用者の家族に参加を呼びかけ利用者と一緒に楽しんでいる。 地域の人から新鮮な野菜のお裾分けがあるなど日常的な交流がある。	町内会の清掃活動は時間帯が合わないため、事業所独自に町内の清掃を月1回利用者と職員で実施している。 清掃活動の際や日々の散歩時に地域の人々と挨拶や会話を交わして交流している。 毎年5月に近隣にある神社の境内を借りて家族等や近隣住民を招待しながら事業所主催の行事を開催しており、今年度は芋煮会を実施している。 歌や踊りの芸能ボランティアを複数受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度、利用者と職員は地域清掃活動を行いながら地域の人々との交流を計っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、市職員、民生委員、職員が出席している。利用者の状況や行事の報告、施設内見学を行なっている。 会議内では運営の事などの質疑応答の時間を設けている。	運営推進会議は家族等や市職員2名、民生委員、事業所の代表者と職員で2ヶ月に1回開催しているが、市職員が毎回出席するまでには至っていないほか、民生委員も欠席する場合があるため、活発な意見交換をするまでには至っていない。 会議では利用者の様子や事業所の運営状況の報告をしてるほか、家族アンケートの結果を報告している。	運営推進会議に市職員が毎回出席できるよう日程調整をしたり、地域住民が運営推進会議に参加できるような働きかけをすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は日頃から市担当者に運営上の相談をしたり、空き情報などの事業所の現状を知らせており、連絡を密に取りながら協力関係を築いている。	代表者は頻りに市役所を訪問しており、その際に担当課に立ち寄って情報交換をしたり、利用者の困り事を相談して助言を得たりしている。 管理者は電話で市担当者に利用者の困り事やターミナルケアに関する相談をしたり、事業所の現状を知らせたりして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員は身体拘束の弊害について定期的に研修を受講し、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為の把握に努めている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、年1回身体拘束をしないケアの研修をしており、職員は身体拘束の内容と弊害を理解している。 利用者の安全確保のためこれまでに身体拘束を実施した事例が1例あるが、家族等の同意を書面で得るとともに、経過観察記録と検討記録を作成している。 現在は身体拘束の対象者はいない。 玄関は外から入ることは自由にできるが、内側から外に出る際にはボタンを押して玄関を開ける仕組みになっており、利用者はそのことを理解していて、外に出る際には職員に連絡し、解錠して一緒に散歩などに出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての施設内研修を行い、全職員が虐待がないよう徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加した職員が施設内で研修を行い、知識を共有している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や契約の申し込みの際は、十分な説明を行い、理解や同意を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から要望が出た場合は、全職員で検討し、利用者の思いにそえるよう支援するとともに運営に反映させている。 年一回無記名の家族アンケートを実施し、出た意見等を記録するとともに全職員で話し合い、運営に活かしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、玄関に掲示している。 利用者からは日常の問いかけや会話のなかから要望を聴き、利用者の思いに添えるよう支援をしているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努めている。 年1回家族アンケートを実施し、「事業所の行事を見たり、他の利用者の様子も知りたい」との要望が出たため、職員で「アンケートに基づく業務改善会議」を開催し、事業所で開催するクリスマス会や遠足などを家族等に知らせたり、家族等も参加ができる行事を増やしたりしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常的に職員1人ひとりから話しを聞き、月一回開催する職員会議で発言する機会を設けたり、個別にヒヤリングを実施して職員の話聞き、出た意見等を運営に反映させている。	月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、毎月管理者と職員との個別のヒヤリングを実施している。 代表者と管理者は職員が日頃から何でも話せるようコミュニケーションを図っている。 職員から出た「電子レンジや電気製品の買い替え」や「手摺の設置など安全面に関する提案」を運営に反映させているほか、職員の家庭の事情による勤務時間変更の要望などにも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人個人の能力を認め、職場環境の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内が来た際は、職員一人ひとりに参加の有無を確認している。外部研修に参加した職員は得た知識等を全職員で共有できるように施設内で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、他施設との交流を図り、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に利用者とコミュニケーションをとり、不安な事等がある時にはすぐに訴えてもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が施設に来所された際には、利用者の日々の生活の様子などの話をしながら、御家族の要望等を伝えてもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画を立てる際、利用者や御家族にケアカンファレンスに参加して頂ける様に促し、必要なサービスを見極めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時にはお箸配りやテーブル拭きなどを手伝って頂くなど、利用者と職員は同じ暮らしを共にするような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連携を保ち、日常生活や利用者本人を共に支援できるような関係を築けるような関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は電話の取次ぎをするなど、利用者の馴染みの人との関係が継続できるように支援している。	利用者の家族等や親戚、知人が来訪した際には、好きな場所でゆっくり話しができるよう配慮しているほか、ドライブを兼ねながら利用者の元の住まいを見に行けるよう支援するなど、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。 職員が同行できない場合は利用者の思いを家族等に伝え、家族等と一緒に墓参りや行き付けの美容院に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に職員が把握できるよう見守りを行い、交流機会をつくり、お互い支えあえる家庭的な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、相談などがある時には支援できるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者1人ひとりと会話をして生活上の希望や意向の把握に努め記録を残すとともに、職員で共有している。 意向の把握が困難な利用者の場合はしぐさや表情を観察し職員で話合ったり、家族に相談して利用者本意に検討している。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、会話や表情などから思いや意向の把握に努め、新しく把握したことは個人のファイルに記録し、全職員で共有している。 思いを言い表せない利用者の場合は、表情やしぐさを観察して職員で話合ったり、家族等に相談したりして利用者の思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から今までの生活歴や、生活環境などを聞き、今までと同じような暮らし方が出来るよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムを観察し、日々の行動や様子を記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回ユニット内で会議を行ない、利用者全員のモニタリングを行なっている。 介護計画は長期目標は10ヶ月毎、短期目標は5ヶ月に見直すとともに利用者の心身の状態に変化があった場合は、家族等など必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画に見直している。	月1回のユニット会議で利用者全員のモニタリングを実施しているほか、利用者や家族等の意向を聞いたり、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。 介護計画は短期目標は5ヶ月毎、長期目標は10ヶ月毎に見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、家族等や医師など必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画に見直している。 介護計画は家族等の来訪時に確認を得たり、郵送して署名や押印後に返送してもらっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのケアプランに沿ったケアを行い、細かく記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護と医療連携体制を取り、医療面に関する事に24時間対応できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の受け入れや、運営推進会議の時などに民生委員の方々から地域の情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に病院受診は家族にお願いしているが、家族が行けない場合は職員が付き添っている。月2回協力医療機関の医師により訪問診療や週1回訪問看護師による健康チェックがある。又、職員が病院受診に付き添った場合は結果等を必ず家族に報告している。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援している。 協力医療機関の医師による月2回の訪問診療や訪問看護師による月1回の健康チェックを実施している。 通院は基本的に家族等が付き添うこととし、その際には利用者の状況や事業所から医師への質問などを記載した「受診記録」を作成し、医師の記載欄を設けている。 職員が受診に同行した場合は、「受診記録」を使用して医師に利用者の状況を記載してもらい、後日家族等に確認してもらっているため、家族等の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度訪問看護が来所し、利用者の健康管理について連携をとっている。職員は利用者の小さな変化も看護師に伝える事になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際に、医師や看護師に施設での生活の様子や、体調の変化などの情報を伝える。また協力医療機関との連携は月2回の往診時などに利用者の健康について連携をとりながら関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族等や医療機関、職員など必要な関係者と話し合い、支援している。 終末期については家族等を交え、十分に話し合い、事業所で出来る事、出来ない事を説明し、書面で看取り介護についての同意を得ると共に、医療機関と連携してチームで支援に取り組んでいる。	看取りに向けて利用者や家族等に事業所でできることとできないことを説明して書面で同意を得ている。 重度化した場合や終末期の支援については、家族等の意向を踏まえたうえで医師の判断のもと、事業所での看取りが可能な場合は実施している。 看取りに関するマニュアルを作成し、職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修へ参加し、職員同士で情報の共有をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程災害を想定した避難訓練を行なっている。内1回は夜間帯での想定にしている。 又、災害時に備え水や食糧を備蓄し、備蓄リストを作成している。	年1回実施する消防署立会いの総合訓練のほか、夜間想定を含めた避難訓練を年1回実施しているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 訓練後は全職員で反省会を行い、訓練時の進行状況や課題を話し合うとともに記録に残し、次回の訓練に活かしている。 300m離れた代表者宅に米と味噌を備蓄するとともに、発電機も備えているほか、井戸も設置している。 事業所にはポカリスエットと懐中電灯を備え、衛生用品の在庫は常に1ヶ月分確保している。	避難訓練や災害時に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議などで話し合ったり、民生委員を通して避難訓練への参加を呼びかけたりするほか、隣接している工場や近くにあるグループホームと災害時における相互の協力体制を築くことを期待する。 米や味噌以外にも缶詰などの副食になる食糧を備蓄し、賞味期限を管理するとともに、賞味期限がせまった食料を活用して炊き出しの訓練をすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に丁寧に話し掛けるなど利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。排泄の誘導は周囲の利用者に気づかれないようさりげない声掛けをしている。	職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。 トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応しているほか、排泄の失敗の時はさり気ない言葉かけでトイレなどへ誘導している。 写真など、広報誌への掲載や事業所内の掲示については、書面で利用者と家族等の同意を得ている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定できなそうな時には二択で服を選んでもらったりするなど最終的に自己決定できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など決まっているが利用者一人ひとりのペースに合わせて時間をずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などに本人の好きな服や色を普段の生活の会話などから聞きだし、取り入れ、最終的にはご本人に選んで頂くよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は下膳やテーブル拭きなどを出来る限りの範囲で行なっている。職員は昼食時は利用者の隣に座り、一緒に食事をとりながらさりげなく食事介助をしている。	職員は利用者と一緒と同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。 食事は日曜日以外は宅配業者を利用しており、職員は配膳のみを行っている。 日曜日は宅配業者以外の業者から食材が届き、利用者と職員と一緒に調理をしている。 嫌いな献立の場合には一人分でも献立を変更することができるほか、海苔やふりかけ、納豆などの代替品を常備している。 自家菜園で収穫した野菜を活用したり、行事食を取り入れたりして食事に変化をもたせているほか、利用者の希望を聞きながら年3回外食を支援し、食事が楽しみなものとなるよう支援している。 利用者は能力に合わせて下膳やテーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人のペースに合わせ、時間にとらわれず摂取していただけるよう支援、介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを促している。ご自分で出来ない利用者は職員が介助しながらガーグル等を使い、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は利用者の排泄のリズムを把握し、その時に合わせ声掛けや誘導を行うなどの支援を行なっている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めて誘導したり、利用者の様子から声をかけてトイレでの排泄を促している。 職員の適切なトイレ誘導によりパッドの使用量が減るなどの改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には毎朝起床時に摂取するよう促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴は週3回と決めており、職員は利用者が希望する時間に入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には無理強いをせずタイミングを見計って声掛けをし、入浴ができるよう支援している。どうしても拒む利用者には清拭や足浴で対応している。	週3回利用者の希望にそった時間帯に入浴ができるよう支援しており、以前は就寝前に入浴も支援していたが、現在は利用者全員が日中に入浴となっている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけをするなど、工夫して入浴ができるよう支援し、入浴できなかった利用者には清拭や足浴で対応している。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じながら入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子が見られる時などには、日中に休憩を取るよう促したり、夜間良く休めるような環境つくれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服薬する際は必ず見守りをし、薬を提供する前に職員2人で、日付、時間帯、名前を確認し、誤薬事故がないよう支援している。又、服薬後は常に見守りをし、症状の変化があった場合には協力医療機関との連携をはかり指示をもらうなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせたレクリエーションや個別ケアを随時行い、日々の生活を楽しめるような支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は事業所の買出しに合わせ利用者と一緒に出掛け、必要な買い物ができるよう支援している。春や秋の開花時に合わせ近隣の植物公園や偕楽園などにでかけている。	天気の良い日は事業所周辺を散歩しているほか、毎週利用者と職員で100円ショップに買い物に出かけている。年間の行事計画を立て、季節に合わせた花見や偕楽園、大洗水族館、愛宕山、ポケットファームどきどきなどに出かけるほか、天気の良い日には利用者の希望を聞きながらドライブに出かけるなど、外出の機会を多く設けている。職員が同行できない場合は利用者の希望を家族等に伝え、家族等と一緒に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は2ヶ月に1回のペースで職員と近所のスーパーなどに一緒に出掛け、お菓子やその時に必要な物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する時にはいつでも電話をかけられる環境を整えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は居室を含めて温度調節をこまめに行い、利用者が快適に過せるよう配慮している。台所では低めのカウンターを設け、小柄な利用者でも利用できるよう配慮している。トイレは車椅子対応の広さがあり、入り口には手すりをつけて安全に配慮している。風呂は1人ずつゆったり入れる広さがあり、車椅子使用の利用者も安心して入れるよう専用の浴用椅子を用意している。	玄関ホールと居間に観葉植物や切り花を飾ったり、廊下に絵画を飾ったりして家庭的な雰囲気づくりをしている。居間の前に自家菜園があるため自然の光りがよく入るほか、栽培している野菜の成長を居間に居ながらにして見ることができ、季節が感じられる居心地のよい空間となっている。トイレは全て車いす対応に設計されているほか、風呂は一人ずつゆったり入れる広さがあり、車いす使用の利用者も安心して入れるよう入浴用車いすを配置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファベッドが置いてあり一人でもくつろげる様な環境を整えてある。 又、玄関近くにもソファがあり、読書をしたり、日向ぼっこをしている利用者がいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンや洗面台、クローゼット、照明器具、カーテンを備え付けている。 利用者は家族等と相談して以前の住まいで使用していた家具などを自由に持ち込み、安心して居心地よく暮らせるように工夫をしている。	居室に洗面台やエアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられているほか、利用者の自立した生活に役立つよう、全居室に壁掛時計を設置している。 事業所の寝具を使用することができるが、使い慣れた寝具を持ち込んでいる利用者もいる。 カレンダーを飾ったりテレビや鏡台、位牌を持ち込んでいる利用者もいるが、全体的には使い慣れた物品や好みの物品の持ち込みは少ない。	異食行為のある利用者の場合は居室に置く物には配慮が必要だが、グループホームという共同生活の中では安心して過ごせる居室づくりが求められているため、利用者や家族等と相談して馴染みの物品を持ち込むなどで、居心地よく過ごせるよう工夫をすることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど認識できるようポスターを作り分かりやすくしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 暖

作成日 平成26年7月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市職員や民生委員等の運営推進会議への参加が少ない。	市職員や民生委員等、外部の方の参加を増やす	会議の年間予定表を作成し市や民生委員に送付し、日程の調整をし易くする。さらに1ヶ月前に、案内を送付し参加を促す。	1ヶ月
2	35	副食になる食糧の備蓄が少ない。災害時における近隣の協力体制の構築不足。	①副食の食糧の備蓄。 ②近隣の企業との交流と、協力体制の構築。	缶詰やレトルトの購入と、それらを利用した炊き出し訓練を行なう。 近隣企業とは、畑で取れた野菜のおすそ分けをするなどして関係を築く。 推進会議で協力体制について話し合う。	①3ヶ月 ②12ヶ月
3	54	居心地よく過せる居室作りが十分でない。	利用者が居心地よく過せる居室作り。	新規入居者には使い慣れた物や、馴染みの物の持ち込みを奨励する。 散歩した際に摘んだ花を飾ったり、お気に入りの鉢植えを育てて貰うなど、利用者や家族と相談しながら居室の環境作りに努める。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。